

# 緑が丘

校訓  
「ゆたかさ・たしかさ・たくましさ」  
学校教育目標  
「認め合い、学び合い、高め合う生徒の育成」

平戸市立田平中学校  
学校だより第18号  
(令和5年11月)  
文責 西澤 庄藏



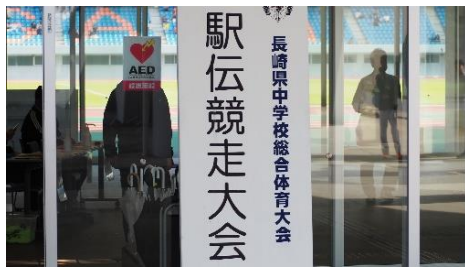
## 県中総体の駅伝競技が行われ、本校選抜生徒の躍動する姿がありました。

11/9(木)諫早市のトランスコスモスタジアム長崎ジョギングコースにて長崎県中学校総合体育大会のフィナーレを飾る駅伝競走大会が開催され、市内大会で出場権を獲得した本校選抜生徒も出場しました。市の大会から距離が長くなり、女子5区間12km、男子6区間20kmで、健脚が競われました。本校からは男女17名で選手団を結成して大会に臨みました。

事前に激励会も行われました。早朝練習、放課後練習等、選手のこれまでの頑張りを称えるとともに、大会での健闘を祈念する思いを伝えました。選抜生徒代表も決意を述べ、大会に臨む気持ちを高めました。

当日の競技そのものは、それぞれの市町を制した精鋭揃いで、男女とも抜きつ抜かれつの順位がめまぐるしく入れ替わる展開となり、手に汗握る緊迫感のあるものでした。声援が飛び交う中、今日ほど選手一人一人の力走が頼もしく映ったことがないぐらい個々の奮闘が光りました。また、事前に緊張感をほぐすよう声かけをしたり、事後に走者のケアをしたりと、サポート選手の献身的な姿もありました。

結果は、女子25位、男子19位で、男女とも持てる力を存分に発揮して大健闘でした。中には、市内大会よりタイムを縮めるなど、ここ一番の大舞台での強さを発揮した選手もいました。総じて、選手一人一人の懸命な姿を間近に感じ、清々しい思いで一杯でした。この大会には1・2年生が控え選手も含めて多く参加しています。3年生から1・2年生へ「心の襷」を受け継ぎ、次年度の更なる飛躍も期待したいと思います。選手団の皆さん、おつかれさまでした。



今年度は開閉会式も実施されました。

## 人権集会に向けた関連学習として講師を招聘しての手話体験教室を実施しました。

11/7(火)2年生を対象に手話体験学習を実施しました。手話を学ぶことにより、聴覚障害に対する理解を深めるとともに、ボランティアの技能を高めるなど「共に生きる」社会実現のための実践力を身につけることも目的として行いました。

当日は、平戸手話サークル会員の方々を講師にお招きして、講義と体験活動がありました。講義では、実際に聴覚に障害を抱えている方々から、昨今の「マスク生活」で相手の口元が見えず口話がしづらいことなど心に刻み込まれるお話の数々がありました。また、体験活動では、講師の身振り手振りを交えた教えに従い、生徒だけではなく我々教師も一緒に学びひとつときとなりました。50音や数字の指文字に加えて、あいさつや返事を含めた簡単な自己紹介ができるぐらいの基礎的な事項を習いました。ほかにも、スポーツや天気を表す手話を実際に体験しながら学び日常会話の上達を目指しましたが…、曲(「故郷」)に合わせた手話を体感したところで惜しまれつつ終了となりました。

手話の導入部を学んだだけでですが、生徒の真剣な態度から、確実に聴覚障害への理解は深まったと実感しました。また、講義から、身近な日常生活にも人権課題があることを知り、互いの違いを認め合い、支え合う姿勢や態度を養う良い機会となりました。

